

# 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

## 評価結果基本情報

評価年度	令和5年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	アートチャイルドケア株式会社
事業所名称	アートチャイルドケア中野南台森の保育園
評価機関名称	株式会社 ケアシステムズ

## コメント

第三者評価を行うにあたり、職員自己評価と保護者アンケートをはじめ、事前資料や訪問調査当日の書類確認など多面的な情報収集に努めた。また、職員からも評価項目ごとにチェックが入られる評価シートを用い、集計報告書に反映させた。訪問調査では、園内見学、保育場面の見学、経営層・専門職などからのヒヤリングを実施した。第三者性確保については、当評価機関と事業者との間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

## I 事業者の理念・方針、期待する職員像

1	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b>
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など） 1) 自分らしく生きていくことのできる子どもを育てる 2) 子どもの全人格を尊重し、子どもたちが本来持っている「生きる力」を育む 3) 何を学ぶかよりも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てる
2	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b>
	(1) 職員に求めている人材像や役割 ・子どもが健康で安全で、情緒の安定した生活ができる環境を用意し（養護）、自己表現を図れるような活動を心がける。 ・日常的に心身の健全な発達を図る（教育）ことを願い、人間として生きる力を養い、心豊かで主体的に生きる子どもの育成を目指す。
	(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・当事者意識 ・向上心 ・新しいことへのチャレンジ精神 ・臨機応変な対応 ・職員同士で互いに思いやる気持ち、互いに切磋琢磨する気持ち

## II 全体の評価講評

### 全体の評価講評

#### 特に良いと思う点

1	<p><b>職員の自己評価において、情報共有やコミュニケーションの取りやすい職場環境であることが挙げられている</b></p> <p>毎日の昼礼のほか毎月、乳児会議や幼児会議、リーダー会議、給食会議など、様々な形態での話し合いを実施している。各クラス会議での意見を代表が持ち寄り、園全体の総意として物事を決めるように努めており、職員の自己評価において事業所の特に良いと思う点に情報共有やコミュニケーションの取りやすさが複数挙げられていた。また大学から講師を招き、毎月40分少人数で6グループ毎回違うメンバーで主体的をテーマに自由に話し合う機会を設けている。この研修開始以降、職員の意見を述べる機会が増え、意欲的に保育に取り組んでいる。</p>
2	<p><b>職員全員が職種や職位を越えチームとなり子どもファーストで保育を行おうとする文化がある</b></p> <p>年度当初に「どんなクラスにしたいか」を考え会議で発表することから、1年の保育が始まっている。専門職である栄養士や看護師と保育士が子どものためにという共通の目的のために協力しあい保育にあたっている。副主任はクラスの困りごと解決のための会議をリードしたり、行事や日々の保育でも保育を牽引し盛り上げている。園長により行われたチームビルディング研修は保育士たちが楽しみながらも互いを敬ったり仲を深められるプログラムになったとのことで、その成果が職員皆がチームとなり保育する園の文化につながっていると思われる。</p>
3	<p><b>様々な形態での話し合いを実施して、保育観の共有を図りつつ、職員全員が同じ情報を共有して保育・業務を実践している</b></p> <p>園では職員の共育・協育をもう一步深めるような保育実践、業務遂行を目指して取り組んでいる。毎月の職員会議での情報共有とともに、研修や課題を互いに取り込む中で、保育観の共有を図り、また昼礼、職員会議に加えて、1階は乳児クラス会議、2階は幼児クラス会議などをそれぞれの話し合いの日程を予め決めておくことで、職員間で協力しながら互いのその時間の確保を行うことが出来ている。会議では時折折チームビルディングを目的とした少人数毎の課題の取り組みもっており、様々な形態で話し合いを行い、職員全員が同じ情報を共有している。</p>

#### さらなる改善が望まれる点

1	<p><b>各計画の連動を意識し、個別のねらいを明確にした上で指導計画づくりをし、子どもの様子を注力し記録して次につなげることを目指している</b></p> <p>園における保育活動は全体的な計画から年間指導計画や月案、週案へ連動させて作成するようにしているが、経験の浅い職員もあり、内容や記入の仕方に差が見られる。園としては各計画の連動を意識し、個別のねらいを明確にしたうえで記録できるよう統一したいと考え、個別に指導しながら、改善を図っている。計画を実施し、目標を達成できたのか、子どもたちはどう変わったのか、この結果をもとに次は何に取り組むのか、PDCAを理解して保育を進めることを目指している。</p>
2	<p><b>園が大切にしている子ども主体の保育活動や環境構成をより深く職員間で高めていき、保護者にも言語化して伝えていくことを期待したい</b></p> <p>子どもの主体性を育むことを大事にしている。環境構成、生活リズム特に午睡、行事などでの取り組みは見た目にもわかりやすく、園・クラス便りや日々のやりとりで保護者にも伝えることができている。一方、日常の中の場面でみられる職員による「子ども主体」のための数々の言葉かけや見守りと援助などの伝達は、かなり意識的に行わないと難しい事柄と思われる。保護者との連絡帳や送迎時のコミュニケーションを丁寧に行うという実践が、単なる子どもの様子の伝言にとどまらず「子ども主体」を保護者と園が共に考える機会・ツールになることに期待する。</p>
3	<p><b>タイトな職員配置の中職員育成に取り組み、全職員が連携し共育・協育を実践していく職員体制を構築されたい</b></p> <p>園長は、適宜、園運営に必要な人員配置を法人に要請して人員体制構築に努め、職員の経歴や適正性、責任感などを勘案し適材適所となるよう職員配置に取り組んでいるが、望む職員確保は厳しい状況にある。園長・主任は現状の下で、目指す保育園像を如何に実現するかを考えて職員体制構築に取り組んでいる。タイトな職員配置のなか、現職員の継続的な勤務を前提として、職員個々の資質の向上を図り、他クラスのことも自分事として考えられるような職員、人材育成に取り組んでいる。全職員が連携し共育・協育を実践していく職員体制を構築されたい。</p>

### III 事業者が特に力を入れている取り組み

1	<p><b>★ 関係者みんなで、開かれた保育園とその運営が行われることを目指している</b></p> <p>園では、この数年、保育士だけではなく、保護者、さらに地域を巻き込みそれぞれとの共育を掲げて保育を行い、保育園に関わる大人みんなで保育園を創っていくという、教育・協育№1を掲げて取り組んでいる。年度事業計画にも目標に掲げ、保育士間では保育感の共有、保護者とは保育参加行事の実施・勧誘、地域とは保育園の役割を知ってもらうと同時に各種連携活動を増やすように取り組んでいる。保育園および園児の情報共有を基に、関係者みんながALL ROUND PLAYERになり、開かれた保育園とその運営が行われることを目指している。</p>
<p><b>関連評価項目(組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる)</b></p>	
2	<p><b>★ 園庭では多くの自然にふれたり菜園活動を実施し、園庭玩具の素材選びの工夫をしている</b></p> <p>園庭には大きな固定遊具や築山がある。四季折々の探索、探求活動が行える自然も豊富にあり、秋には沢山の落ち葉や木の実拾いなどできる。3～5歳児がプランターで野菜を育てているため、園庭遊びの際に苗から生長していく様子を観察することもできる。異年齢の子どもたちが園庭で出会い関わりがもてる良さがある一方、幼児がダイナミックに遊ぶことができるよう職員間で相談し、時には幼児専用日を設けるなどの配慮もしている。ごっこ遊びの様子から職員が焼網や配管などを用意したことで遊びが一層豊かに広がりを見せたなどの姿も報告されている。</p>
<p><b>関連評価項目(日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している)</b></p>	
3	<p><b>★ 近隣園や小学校と交流する中で地域の防災や防犯、災害時の連携を目指している</b></p> <p>園では「共育・協育NO.1」という目標を掲げ、保護者や地域との共育・協育を行うことを目指している。地域との共育・協育として、地域行事へ積極的に参加し、互いの顔を覚え、関わりを深めている。近隣の保育園の年長クラスの交流を数年前から始め、当園がホスト園となり、参加園を8園と少しずつ増やしながら、ドッジボール大会など、年に数回の交流の場を設けている。また小学校との交流を連携を取りながら計画しており、このような交流を通して、地域住民に園を知ってもらうとともに、地域の防災や防犯、災害時の連携につなげたいと考えている。</p>
<p><b>関連評価項目(地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている)</b></p>	

## IV 利用者調査結果

### 調査概要

**調査対象：**調査日現在、本園の全87世帯（利用者総数96名）を調査対象とした。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱い、当園に複数名園児を預けている場合は、一番低年齢の園児に対しての回答とした。

**調査方法：**アンケート方式

アンケートは、QRコードを付した依頼文を配付し、評価機関に直接電送してもらう方法と、アンケート用紙を園にて配付してもらい回答は返信用封筒にて評価機関に直接送付してもらう方法の2種類で実施した。

利用者総数	96人
利用者家族総数（世帯）	87世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	87人
有効回答者数	53人
回答者割合（%）	60.9%

### 総括

総合的な満足度に関する調査の結果は、回答者の全員が「大変満足」または「満足」と回答し、大変高い満足度が得られている。項目別では、＜保育サービス＞に関する8設問は6設問において、大変高い満足度であった。特に「子どもの発達への有用性」では、98.1%の大変高い満足度が得られている。＜安心・快適性＞に関する4設問は3設問において、大変高い満足度であった。特に「職員の接遇」では、94.3%の大変高い満足度が得られている。＜利用者個人の尊重＞に関する3設問は全設問において、大変高い満足度であった。特に「子ども気持ちの尊重」では、88.7%の大変高い満足度が得られている。＜不満・要望への対応＞では、「不満や要望への対応」は69.9%の満足度であったが、「外部の苦情相談窓口の案内」についてはさらに高い満足度が望まれる結果であった。

### 利用者調査結果

1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか							
はい	52人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が98.1%、「どちらともいえない」が1.9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「お友だちや職員方と日々生活する中ですごく成長していると思います」、「新しい刺激をたくさん受けていると思います。間違いなく社会生活の学びの場になっていると思う」、「活動範囲、内容を増やしてほしい」という声が聞かれた。							
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか							
はい	51人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が96.2%、「どちらともいえない」が3.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「休みの日でも行きたがるほど、楽しんでます」、「毎日様々な物や環境を提供してくれ、たくさんの経験をさせてもらっている」、「園での日々の細かな活動内容までは保護者に知らされていない」という声が聞かれた。							
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか							
はい	43人	どちらともいえない	10人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が18.9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「お昼ご飯のメニューについてよく話してくれており、毎回美味しいとの感想を伝えてくれています」、「すべて手作りで対応してもらっていて、本当にありがたいです」、「給食の献立が思っていたよりも少しシンプルで食材も少なめだと感じる」という声が聞かれた。							
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか							
はい	44人	どちらともいえない	4人	いいえ	4人	無回答・非該当	1人
「はい」が83.1%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が7.5%、「無回答・非該当」が1.9%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「園庭の他にも公園によく連れだしてくれますし、遊具なども十分。食育もあり、植物を育てているのもありがたいです」、「園庭も広く、野菜を育てて収穫し給食で食べるなどの経験は本当にありがたいです」、「活動内容や範囲、社会とのかかわりは周りと比較したらかなり少ない」という声が聞かれた。							
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか							
はい	42人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	8人
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が5.7%、「無回答・非該当」が15.1%であり、高い満足度であった。自由意見では、「柔軟すぎるくらいで、本当に助かっています。常に保護者目線」、「いつも対応していただきありがとうございます」、「該当の事態になったことがまだない」という声が聞かれた。							
6. 安全対策が十分取られていると思うか							
はい	37人	どちらともいえない	14人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
「はい」が69.8%、「どちらともいえない」が26.4%、「いいえ」が3.8%であった。自由意見では、「子どもがケガをするのは仕方ないですが、その後のケアがしっかりしているので安心して預けられます!」、「朝担当の職員が門の入り口から離れていて、誰でも入れてしまいそうな時があり少し気になっています。園の中については特に意見はありません」、「出入口はなんとなく決まりはあるものの、勝手に開けてくれる時もあり安全とは思えない。部屋の中は職員方が気をつけているイメージ」という声が聞かれた。							

**7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か**

はい	48人	どちらともいえない	5人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「事前の日程連絡が非常に早くて助かる」、「まだ実際にはないのですが、天候次第で平日になる可能性があるのは困るかもしれません」、「連休でのスケジュールは避けた方がよいのでは。以前、金曜、月曜と園行事があり困るとの声を聞いたことがあります」という声が聞かれた。

**8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか**

はい	44人	どちらともいえない	7人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が83.1%、「どちらともいえない」が13.1%、「いいえ」が3.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「相談すると忙しくても対応してくれるし、後日経過も報告してくれる」、「担任によって異なりますが、今の担任はとても子どもたちを見ていてくれます」、「職員による。こちらから相談することはできるが、意思の疎通が上手く取れる職員と、そうでない職員がいて、相性による」という声が聞かれた。

**9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか**

はい	49人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が92.5%、「どちらともいえない」が7.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「整理整頓が徹底している。危険物はもちろん、職員の私物なども見当たらない」、「園が広くてきれい」、「換気が不十分なのか部屋の臭いがきつい（食事タオルの嫌な臭い）」という声が聞かれた。

**10. 職員の接遇・態度は適切か**

はい	50人	どちらともいえない	3人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「たまに敬語ではない職員がいて違和感があるが、基本挨拶・敬語・服装など本当に素晴らしい」、「職員による」という声が聞かれた。

**11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか**

はい	49人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が92.5%、「どちらともいえない」が7.5%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「具合が悪い場合にはすぐ電話で状況を説明してくれます」、「細かいケガも伝えてくれて信頼できる」、「小さなケガなのであまり気にはしていないですが、ケガをした時の状況や理由（原因）が、いつも不明確な伝達をされることが多く、子どもに聞き直すことが多いです」という声が聞かれた。

**12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか**

はい	34人	どちらともいえない	12人	いいえ	1人	無回答・非該当	6人
----	-----	-----------	-----	-----	----	---------	----

「はい」が64.2%、「どちらともいえない」が22.6%、「いいえ」が1.9%、「無回答・非該当」が11.3%であった。自由意見では、「子ども同士のつかみ合いなどもありますが、適切に対処されてると思います」、「対応していると信頼しているが、正直確かめようがない」、「当事者ではないので、どんな場面でどう対処しているかを把握できていません」という声が聞かれた。

**13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか**

はい	47人	どちらともいえない	6人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が88.7%、「どちらともいえない」が11.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「そう思う職員もいれば、そうでない職員もいる気がします」、「個々を尊重し、とても大切にしてくれる職員もいるが、大多数をひとまとめに扱っていると感じる職員もいる」、「職員による」という声が聞かれた。

**14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか**

はい	46人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	5人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が3.8%、「無回答・非該当」が9.4%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。

**15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか**

はい	45人	どちらともいえない	6人	いいえ	2人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」が84.9%、「どちらともいえない」が11.3%、「いいえ」が3.8%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「皆に同じ話をしているんだろうなと感じることが多い」という声が聞かれた。

**16. 利用者の不満や要望は対応されているか**

はい	37人	どちらともいえない	12人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	-----	-----	----	---------	----

「はい」が69.8%、「どちらともいえない」が22.7%、「無回答・非該当」が7.5%であった。自由意見では、「できないことはできないと説明してくれます」、「相談した時は誠実に対応してくださいました」、「園でのアンケートに書きましたが、あまり変わった様子は見られません」という声が聞かれた。

**17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか**

はい	17人	どちらともいえない	12人	いいえ	11人	無回答・非該当	13人
----	-----	-----------	-----	-----	-----	---------	-----

「はい」が32.1%、「どちらともいえない」が22.6%、「いいえ」が20.8%、「無回答・非該当」が24.5%であった。自由意見では、「園での対応に十分満足しており第三者機関を使用する必要がなかった。が、第三者機関をきちんと入れようとする姿勢も信頼できる」、「入園や進級の時に配布されたしおりに説明がありましたが、特にわかりやすい説明はなかったです」という声が聞かれた。

## V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			
サブカテゴリー1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
標準項目2	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
評価項目2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		実施状況
標準項目1	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
標準項目2	経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している		○
評価項目3	重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		実施状況
標準項目1	重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている		○
標準項目2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している		○
標準項目3	利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている		○
講評			
<p><b>職員および保護者には事業計画書やパンフレットを通して理念などの周知に努めている</b></p> <p>保育理念などは園パンフレットやHPに記載し、さらにパネルを作成し園玄関に表示されており、法人・園が実施する保育の内容や特性、目指す方向性や考え方、姿勢を読み取ることができる。事業計画には、「企業理念」「アートチャイルドの誓い」や「NO.1宣言」などを記載し、職員の行動規範ともなるように具体的な内容となっている。園では事業計画書を配付し関連事項を周知するようにして理念などの理解浸透に努めている。保護者などに対しては、入園説明会や園見学で説明しており、また園のしおりやパンフレットで丁寧に説明を行っている。</p>			
<p><b>園長はNO.1宣言を明示して自身および職員の役割や責任、課題について説明している</b></p> <p>園では、毎年度末に職員会議などで、職員は各自の一年の業務を振り返りを行い、次年度の目標設定につなげている。園長は、年度当初に法人の年度方針や園長の所信表明をはじめとして、園の目指す方向性など園長の想いを伝えている。園長は職員個々の意見や提案を加味して、年度当初に「アートチャイルドケア中野南台森の保育園 NO.1宣言」を明示して、その年度の業務・保育の指標とし、これに基づいて、園長はじめ各職員それぞれの立場における自らの役割と責任、それに基づき取り組むべき課題を明らかにして計画的に園運営できるよう努めている。</p>			
<p><b>重要な案件の内容や決定経緯などは定められた手順で、各関係者に伝えている</b></p> <p>法人・園全体に関する案件は、年8回の園長会議や2回実施の主任会議で検討協議して決定しており、案件などの検討や決定の手順はあらかじめ決まっている。園長会などでの決定事項は、運営委員会や職員会議で伝え、今後の見通しなどを職員全体で把握共有できるようにしている。園内の重要案件に関しては、園長と主軸となるリーダー層がまず協議し、職員会議にて全職員で検討した後、決定している。保護者に対しては、クラス懇談会や保護者配信アプリなどにて配信して伝え、また毎月園だよりやクラス便りを発行して伝達事項を知らせている。</p>			

※実施あり：○、実施なし：×、非該当：-

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
評価項目1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		実施状況
標準項目1	利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目2	事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		○
標準項目3	地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		○
標準項目4	福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している		○
標準項目5	事業所の経営状況を把握・検討している		○
標準項目6	把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		○
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		実施状況
標準項目1	課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している		○
標準項目2	中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○
標準項目3	策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○
評価項目2	着実な計画の実行に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○
標準項目2	計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○
講評			
<p><b>収集した情報に基づき、園として対応すべき課題の抽出に努めている</b></p> <p>保護者からは各種アンケートや個人面談などで要望を集約し、職員の意向や提案は面談にて把握して、共に園運営に反映している。地域の福祉の現状については、区の園長会や地域の各種会合、さらに園見学者などから地域のニーズを情報収集している。福祉業界の動向は、法人より送られる最新の社会福祉情勢や地域ごとの状況分析、厚生労働省HP、保育誌などから最新情報を把握している。園の経営状況については、法人からの報告事項や園から法人へ送る月次報告書などを介して把握している。これら各種情報より園としての課題抽出に努めている。</p>			
<p><b>計画策定に当たっては、園長が「NO. 1宣言」(案)を作成し職員で審議決定している</b></p> <p>園としての課題を踏まえて、3年スパンで園独自の中長期計画を策定している。この中長期計画を踏まえて単年度事業計画を策定している。計画策定に当たっては、各クラスからの前年度の振り返り・見直しをまとめ「NO. 1宣言」(案)を作成して審議し決定している。さらに全体的な計画、年間計画、行事計画など各種計画を策定し、年間を2期に分けて年度内の見直しを図りながら園の経営・運営を進めている。保育目標を達成するため、各項目にわたりどのような保育実践をしていくのか、数字や実施事項を織り込みながら具体的な計画を策定している。</p>			
<p><b>毎月自己評価を実施し、PDCAのサイクルを継続して恒常的に見直しを行っている</b></p> <p>年度当初に職員体制、職務分掌、各係の役割分担を明示し、事業計画および各保育計画などに基づいて、園の経営・運営、保育実践が行われている。職員は各計画に基づき、毎月振り返りを行い自己評価を実施して、PDCAのサイクルを継続し、恒常的に見直しを実施して園全体また職員個々の振り返りや見直しが組織的に行われている。保育目標を実現するために、各クラスごとに目標を設定し、またNO. 1宣言を基にした保育運営を行い各指導計画の進捗状況や達成度合いの内容を確認しつつ、子ども達の個々の成長発達を確認している。</p>			

カテゴリー3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
	評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○
	標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
	評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	実施状況
	標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○
	標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○
	評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	実施状況
	標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○
	標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
	評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○
	標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○
	評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○
	標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○
	標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○
講評			
園内研修にてロールプレイングを行い、法令順守などに取り組んでいる			
職員は入職時のオリエンテーション研修にて、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などについて受講しており、法令遵守や人権尊重、コンプライアンス遵守などについての理解に努めている。さらに、園長は職員会議（園内研修）を実施して、「保育士倫理綱領」「児童憲章」などを提示し、保育士の基本を常に確認するよう指示している。園内研修では倫理観、遵守すべき法や規範について最新事例を挙げ都度伝え、ロールプレイングにて職員は自己の振り返りを行い、法令順守・コンプライアンス遵守に取り組んでいる。			
苦情や虐待について、法人や関係機関と連携して解決する体制を構築している			
重要事項説明書には苦情受け付け体制や第三者委員について記載し、また園内に苦情解決フローおよび行政機関など外部相談窓口の連絡先を掲示している。保護者に対しては「園のしおり」を配付したり、コドモン資料室に案内を記載して苦情解決制度について説明周知に努めている。虐待防止に関しては「虐待防止マニュアル」「虐待対応フローチャート」にて組織的に対応しており、職員会議や昼礼で注意喚起を呼びかけている。また、虐待発見時および虐待の疑い時点で虐待対応フローチャートなどに基づいて関係機関と連携し情報共有して対応している。			
地域に開かれた保育園を目指して地域交流・地域貢献に取り組んでいる			
HPに園概要を公表し、保育の様子をSNSで公表している。園玄関には運営規定や重要事項説明書などをファイリングし、見学者などいつでも閲覧できるようにしている。園では、実習生マニュアルを整備して園長・主任が担当者となり、ボランティアや実習生および小・中学校性の見学や体験などの受け入れを行っている。「かつば祭り」など地域行事に参加して、地域に開かれた保育園を目指し地域との交流、地域貢献に取り組んでいる。また、園長はじめ職員は、各種の園長会や連絡会などに出席し、地域とのネットワークに参画し協働体制を整えている。			

カテゴリ4 リスクマネジメント			
サブカテゴリ1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
評価項目1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		○
標準項目2	優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		○
標準項目3	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している		○
標準項目4	リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		○
標準項目5	事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		○
サブカテゴリ2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評価項目1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		実施状況
標準項目1	情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている		○
標準項目2	収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している		○
標準項目3	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		○
標準項目4	事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		○
講評			
<p><b>園では、子どもの命の安全保障を第一として各リスク対策に取り組んでいる</b></p> <p>園では法人人事総務課と連携して、子どもの命の安全保障を第一としリスクマネジメントに取り組んでいる。各種マニュアルの内容を確認し、日常的に発生しやすいリスクを重視してリスクマネジメントを行い、危機管理として感染症、自然災害、火災、不審者対策などを順にして各リスク対策に取り組んでいる。さらに園では、「事故報告」「ヒヤリハット・軽傷報告」を毎月集計・分析して、職員会議や昼礼で報告し職員間で振り返りを行い、必要に応じて保護者などへの迅速な情報発信を行い、最善策を共有して再発防止・事故予防に取り組んでいる。</p>			
<p><b>近隣地域・関係機関との連携・協働体制の下での各種訓練の実施が望まれる</b></p> <p>園では感染症BCPおよび、自然大災害や深刻な事故などに備え自然災害BCPを策定し、毎月避難訓練と年2回不審者対応訓練を実施し、各関係者にリスク対策マニュアルや各BCPについて説明し周知に努めている。また食材備蓄品リストを作成し、定期的に点検を実施して管理している。さらに、「安全点検表」を用いて毎日保育園内の安全確認を実施し、事故やケガの発生・防止に努めている。現在、消防署や警察署の指導の下で訓練を行っているが、今後は大災害や大事故などに備えて、さらに地元住民や団体などと連携した防災訓練などの実施が望まれる。</p>			
<p><b>重要文書類や個人情報には適切な情報漏洩防止対策を講じている</b></p> <p>職員に対しては、「情報セキュリティ管理規程」に基づいて園内研修を実施し、情報管理とともに個人情報の取り扱いについて説明し周知に努めている。また、コンプライアンス研修を実施し、特に個人情報保護について周知し理解浸透に努めている。重要文書類や個人情報は事務室にて施錠可能な書庫に整理保管し、園のPCなどにはアクセス権やパスワードを設定して情報漏洩防止対策を図り、また個人情報に関わる書類の外部持ち出しは厳禁としている。個人情報の開示請求への対応は、園と法人が連携して適切に対応する体制が整えられている。</p>			

カテゴリー5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
評価項目1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		実施状況
標準項目1	事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○
標準項目2	事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○
評価項目2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		実施状況
標準項目1	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている		○
標準項目2	事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○
評価項目3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○
標準項目2	職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している		○
標準項目3	職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している		○
標準項目4	指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○
評価項目4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金・昇進・昇格等）・称賛などを連動させている		○
標準項目2	就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○
標準項目3	職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○
標準項目4	職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○
サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		実施状況
標準項目1	職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○
標準項目2	職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○
標準項目3	目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○
講評			
法人にて人材募集・採用を行い、園長は適材適所となるよう職員配置に取り組んでいる			
法人に「採用戦略室」を設置して人材募集および採用を行っており、公式HP求人、専門学校などへの求人活動、就活ブース会場設置、園見学ツアー、フレンドシップ紹介制度など多岐にわたる採用活動を駆使し人材確保に努めている。園長は、適宜、園運営に必要な人員配置を法人に要請して人員体制構築に努めている。異動・配置に関しては、職員個人の要望や異動希望、昇進意欲と意向を把握し、園長に結果報告している。園長は、その結果を加味しつつ、職員の経歴や適正性、責任感などを勘案し適材適所となるよう職員配置に取り組んでいる。			
育成・評価・処遇が連動した人事管理の仕組みを構築して人材管理・育成を図っている			
園長は独自にキャリアパス制度を考案して等級ごとに求められる役割を定義し、評価基準、教育の方向性、処遇根拠を明確にして職位に応じた人材育成をしている。職員は「自己申告書」に目標を設定し、職員面談を通じて職務内容の達成度合いや課題を個々に確認している。園では、自己申告、人事考課を基に幹部職員で話し合いを行い、人材育成（研修）計画など次年度以降の体制について決定して育成・評価・処遇が連動した人事管理の仕組みを構築している。園長はキャリアパスおよび人事考課制度に基づき職員個々のスキルアップを図っている。			
全職員で連携し協働して、日々業務を遂行し目指す保育の実現に取り組んでいる			
園長は法人の人事担当と連携して職員の労務管理を行っている。法人で有給休暇取得率や時間外労務超過をデータ化し、職員就業状況や意向などを把握し園長に報告している。園長は職員の心身の状態を把握しシフト調整により職員の厳しい勤務状況の中、時間外労働削減などに努めている。職員は毎月、自己評価兼研修計画の記入にてセルフチェックを行い、またメンター制度やOJTチェックシートを活用して振り返りや見直しを行っている。各会議での内容を共有して全職員で協働し、目指す保育の実現に取り組んでいる。			

カテゴリ7 事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリ1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	園では、一昨年に保護者、地域とそれぞれとの共育を掲げて保育を行い、ある程度の成果はあったが、保育園に関わる大人みんなで保育園を創っていくという姿勢をさらに高めたく、「教育・協育NO. 1を掲げ、それぞれ保護者、地域との共育・協育を行っていく」ことをテーマにして取り組んでいる。年度事業計画にも目標に掲げ、実施した事項は、 ①保護者との共育・協育では、各クラスで「どんなクラスにしたいのか」をテーマとして話し合いA3用紙にまとめ、クラスの思いを保護者に発信して保育内容を共有するとともに、保育者の初心の保育感の指標ともしている。また、保護者の保育参加（行事の準備・園内外の環境構成、パパママ先生）についての活動を幼児クラス3クラスに拡大し、少しでも多くの保護者の保育参加を目指して情報発信している。 ②地域との共育・協育では、地域行事への参加、近隣の保育園8園との年長交流会（ドッジボール大会）、小学校との交流と様々な交流を予定している。さらには、地域の防災や防犯、災害時の連携。を目指し活動している。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 結果、A3用紙にまとめ、見やすくしたことで保護者や来客だけでなく、保護者間でも保育内容について共有できたことは非常に有意義であった。また、3クラスに拡大したことでより多くの保護者に参加してもらうことが出来てきている。子ども達やクラスの様子はもちろんのこと保育者の動きについても見てもらうことで距離が縮まり、周囲を巻き込んだ保育を展開することが出来た。地域行事へは積極的に参加したことで、以前よりも互いの顔を覚え関わりが強まってきた。年長交流会ではホスト園として運営を行い、連絡調整を細かく行って行く中でより他園との園児同士の関係性も深まったとの検証結果を出している。今後、保護者との共育・協育では、「夢中」と「主体性」を軸としてどんなクラスにしたいのかを話し合い、その結果を保護者と共有し年度末にその達成度合いを各クラスで発表したい。パパママ先生について、乳児クラスにも拡大して全クラスで行う。地域との共育・協育では地域行事への参加近隣8保育園との年長交流会、小学校との交流や作品展への出展など様々な連携を予定している。交流を通して保育園の役割を知ってもらうと共に、地域活動の幅を広げていく機会を増やして行くとしている。		
評価項目2	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	一昨年に保育者間の共育を掲げて保育を行い、ある程度の成果はあったが、さらに保育感の共有と発展、そして情報共有を密にすることで職員全員で保育園を創る意識を高めていきたく、昨年度の目標の一つに「教育・協育NO. 1宣言を掲げ、職員間の共育・協育を行っていく」ことをテーマにして取り組んでいる。実施した事項は、日々の昼礼、毎月の職員会議での情報共有とともに、研修や課題を互いに取り組む中で、保育観の共有を図っていく。また、園内での行事や業務の分担を行い、職員全員がそれぞれのできる範囲の中で保育運営に携われるようにしていく。以上を念頭に、子ども達の様子を写真に撮り、その写真を持ち寄って研修を行ったり、保育内容の話し合いでは、それぞれの立場に関係なく意見交換し主体的に話し合いをすることに取り組んでいる。	
評語	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
【講評】 実施事項は保育士自身の保育実践を通じて課題解決に臨んでおり、子ども達の様子を写真に撮りその写真を持ち寄って研修を行っている。様々な視点で話し合いながら分類していくことで、保育観の共有へとつながり、また保育内容の話し合いでは、それぞれの立場に関係なく意見交換することが出来、主体的に話し合いへ参加することが出来ている。当初のねらい通り、保育者間の共育・協育が実践されており、次年度は区で発行している「保育の質ガイドライン」「子どもの権利に関する条例」を取り入れて地域や保護者とも保育内容の共有をさらに行いたいとしている。さらには、日々の昼礼、毎月の職員会議での情報共有とともに、研修や課題を互いに取り組む中で、保育観の共有を図っていく。また昼礼、職員会議に加えて、乳児クラス会議や、幼児クラス会議などを予め年間予定に組み込み、様々な形の中での話し合いを行っていく。会議では時折チームビルディングを目的とした少人数毎の課題の取り組みも行っていき、職員との共育・協育をもう一歩深めるような保育実践、業務遂行を目指しており、PDCAサイクルをうまく回しつつ保育を実践している。		

## VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー 6）

カテゴリー 6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー 1 サービス情報の提供			
評価項目	評価項目 1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目 1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/>
	標準項目 2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/>
	標準項目 3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/>
	標準項目 4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/>
<b>講評</b>			
<p><b>法人のHPでは保育理念や生活リズムを改善していく「眠育」などを説明している</b></p> <p>区のHPではトップページの一番先に「子育て・教育」というカテゴリーが表示されており、子育てサイトへ移動し、目的別に探す探しやすいページとなっている。保育園・幼稚園のページには入園手続きや保育料を確認できるほか、認可保育園一覧として保育所名や所在地、電話番号、定員、保育時間などを見ることができる。法人のHPには子どもたちが主体的に自分らしく「生きる力」を育むという保育理念や「安心と安全」を前提に睡眠をはじめとした生活リズムを改善していく取り組みである「眠育」に力を入れていることなどを説明している。</p>			
<p><b>園名にあるように森の中のように樹木に囲まれている場所であることを紹介している</b></p> <p>園のHPには園庭や保育室、門、絵本コーナーなどの画像を見ることができ、園名にあるように森の中のように樹木に囲まれ、自然を身近に感じられる場所で保育室にはロフトや隠れ家コーナーがあり、園庭にはアスレチックやボルタリングなどがあることを紹介している。このほかに住所や駅からの案内、利用定員などの基本情報のほかに毎月、園の様子の画像とともに園での活動内容を見ることができる。パンフレットは法人統一の書式にHP同様、定員や保育室などの画像があり、中面には1日の流れが書かれている。</p>			
<p><b>見学の際は感染症やケガといった留意事項のほか、廃材遊びなど園の特徴を伝えている</b></p> <p>パンフレットは園に置かれているほか区役所にも設置しており、持ち帰ることができるようになっている。見学は電話やHPでも受け付けており、見学者の希望に合わせて日程を調整し、園長または主任が対応している。見学の際にはパンフレットを渡して、質問に丁寧に答えながら、園内の様子や集団生活のため感染症は防ぎきれない、対策はするが成長とともに噛みつきやケガが増えることなど、入園にあたっての留意事項を説明している。またベランダからの景色を見てもらい、自然が多い環境であることや廃材遊びなど園の特徴についても伝えている。</p>			

サブカテゴリ-2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況	
標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	
標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	
標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○	
評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況	
標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○	
標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○	
標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○	
<b>講評</b>			
<b>園長や主任、看護師、栄養士がそれぞれの専門分野について個別面談を行っている</b>			
<p>入園が決まると入園説明会で、重要事項説明書である入園のしおりにて、園長から保育理念・目標や法人・園の概要、職種・職務内容ごとの人数、保育・延長保育時間、延長保育、夕食などの料金などを保護者に説明している。説明会が終わると園長や主任、看護師、栄養士がそれぞれの専門分野について個別面談を行い、事前に記入をお願いした児童票や健康記録、生活状況表などを見ながら、子どもや家庭の状況の確認をしている。聞き取りの際には持病やアレルギーなどの健康状態や0歳は離乳食の形態について丁寧に聞き取りを行っている。</p>			
<b>保護者の就労状況を確認しながら標準スケジュールをもとに慣らし保育期間を決めている</b>			
<p>個別面談の中で保護者の就労状況を確認しながら、0歳は2、3時間を2日程度から始め、3週間かけて少しずつ時間を延ばすなど、年齢ごとの標準スケジュールをもとに慣らし保育の期間を決めているが、クラス担任と相談して伸ばしたり、幼児の場合は初日の様子を見て短くしたりしている。入園当初は子どもが新しい環境に慣れておらず、不安定な状況でもあるので、聞き取りの内容を職員間で共有し、園全体で見守り、受け入れ時に保護者から様子を聞くとともに本人の様子を観察するほか、午睡や食事の時は特に注意して様子を確認している。</p>			

サブカテゴリ3 個別状況の記録と計画策定			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	評価項目2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○
	評価項目3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	標準項目2	子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○
	標準項目3	子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○
<b>講評</b>			
<b>発達記録は乳児は毎月、幼児は4期ごとにアセスメントし、全職員に共有されている</b>			
一人ひとりの子どもの心身状況は入園時に提出してもらった児童票に家族構成や就労状況など、健康記録病歴や感染症、予防接種の履歴など、退園まで1枚の帳票で管理し、個別のファイルに綴じ、管理している。また発達記録はシステム上で乳児は毎月、幼児は4期ごとにアセスメントし、全職員に共有している。園の全体的な計画は前年度のものをもとに園長が作成し、職員の意見を聞き、修正している。計画には年齢別の擁護や養育の目標だけでなく、食育や健康管理、保護者支援など、多くの項目について策定されている。			
<b>睡眠の影響は大きいとして法人として「眠育」に取り組んでいる</b>			
子どもにとって睡眠の影響は大きく、睡眠をはじめとした生活リズムを改善していく「眠育」に法人として取り組んでおり、園では睡眠時間の記録を取り、保護者に年1回フィードバックするとともに5歳児クラスの就学に向けた午睡の時間をなくす時期をこのデータをもとに決めている。各クラスの年間計画は全体的な計画をもとに4期ごとの擁護や教育などのねらいや行事を計画している。それぞれの期の終わりには評価・反省を話し合い記録し、翌期の見直しを行っている。月案や週案も同様に計画の実施状況や子どもたちの様子に合わせて見直しを行っている。			
<b>各クラスで「どんなクラスにしたいか」をテーマに決め園内に掲示している</b>			
園では「共育・協育No.1」を掲げ、保護者や地域との共育・協育を行うことを目指している。保護者との共育・協育として、園長の発案で年度初めに各クラスで「どんなクラスにしたいか」をテーマとして話し合い、分かりやすくA3用紙にまとめ、園内に掲示している。これを見てもうことでクラスの思いを保護者に伝え、保育内容を共有するとともに、職員の初心の保育観の指標としている。今年度は「夢中と主体性」をテーマに各クラスの思いが作られた。これをもとに何をするのかを保育計画に盛り込み、思いを実現することを期待したい。			

サブカテゴリ4 サービスの実施		
評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○
標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○
標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○
標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○
標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○
標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○

## 講評

## 子ども一人ひとりについて家庭状況も含め全職員が情報共有のうえ保育を行っている

毎日の昼礼で各クラスの子どもの家庭状況のトピックスを共有している。1.3時間開園の保育を行うために職員はシフトで動いているが、担任しているクラス以外の子どもの状況も把握し、全職員が全園児・家庭をサポートしている。子ども一人ひとりの保育計画はクラス担任が乳児は毎月、幼児は3か月に1回計画したあと、主任や園長も発達にそっているのか、個性が大切にされているかなどを確認している。また栄養士や看護師も専門職として常に連携を図っているため、広い視野視点で子ども一人ひとりの発達をおさえた保育が提供されている。

## 子どもの同士のケンカやトラブルには子どもの発達や状況に合わせて対応している

子どもの成長過程で生じるトラブルについては、予め年度始めの保護者会で発達の特性も踏まえ保護者に伝えている。職員は子どもそれぞれの気持ちに寄り添いながら代弁したり相手の気持ちを伝えたりしながら双方が納得できるよう対応している。幼児クラスではケガにつながらないよう職員が傍で見守ることもある。子どもが自分たちの力で解決できることもあれば、職員に解決へのサポートを求めてくることもある。幼児になるとそれぞれの気持ちや経緯も複雑になるので、どのようなサポートがより良いのか職員も考えを深め学び続けている。

## 小学校主催のお祭りや児童館で学童と交流する中で就学への期待が育つようにしている

「就学に向けて」が保育計画に入ってくる5歳児担任は、日々、折に触れ子どもたちが負担にならないよう配慮しながら「卒園したら…」「小学生になったら」という言葉や話題の提供をしている。地域の保育園が集まって実施するドッジボール大会や小学校との交流では保育園の子どもが地域の中に顔見知りが増えていくこともねらいの一つと考えている。園に隣接する児童館や学童を利用している卒園児が散歩や園庭遊びの際に声をかけてくれることもあり、自然な形で小学生との触れ合いがうまれる恵まれた環境と思われる。

評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○
標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○
標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○
標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○

## 講評

## 保護者連絡アプリを使い保護者と保育園でのコミュニケーションを図っている

保護者は園とのやり取りのための保護者連絡アプリを入園時に入手し、登園日には毎朝子どもの体調や生活リズムなど基本事項を入力している。園でも日中の様子や食事・睡眠・排泄についてアプリに記載し、夕方には保護者に向け送信しており、子どもたちの24時間を連続して観察できるようにしている。幼児クラスは個々の細かな様子を伝えるのではなく、クラス全体の活動の様子やエピソードが保育室前のホワイトボードに記載されている。また準備物や連絡事項の記載もあるので保護者はお迎え時に必ず目を通すことになっている。

## 個人差が大きい午睡への対応を園全体の共通理解のもとに実施している

年長児は6月から午睡なしとしているが、体調が万全でない日や週末など子どもが疲れて寝たいときには横になることもできるようにしている。子どもにより午睡の必要がなかったり短時間で良い場合には、一定時間身体を休めた後は起きて静かな遊びをして過ごすことができるよう幼児3クラスで協力し、寝る部屋と起きる部屋を分けている。乳児でも1歳児保育室を睡眠の部屋とすることで、早く寝たい2歳児は早めに移動、逆に遅めに入眠したい1歳児は少し2歳児の部屋で遊んでからというように、個々のリズムを大切にするための協力がされている。

**年齢に応じて基本的な生活スキルを獲得できるような丁寧な対応と環境が整っている**

1・2歳児クラスはオムツ交換や着替えスペースをすることで子どもも集中でき、職員も丁寧に対応できるようにしている。小さい椅子を置くことで子どもはズボンを履く動作もしやすくなり、自分でやりたいという気持ちが育つように配慮している。また、食事で使用したエプロンやタオルを所定の入れ物に片付けられるような動線の工夫もあり、自分のことは自分で行う第一歩につながっていると思われる。幼児クラスでは職員の声かけがなくても食器を正しく置いたり、食後の食器の片付けやテーブルを拭くなど日々繰り返しの中で身に付くように支援している。

評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○
標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○
標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○
標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○
標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○
標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○

## 講評

## 発達に応じた生活や豊かな遊びのための環境が整っている

乳児クラスは成長発達が著しい時期のため、1年の間に数回部屋の配置換えや玩具の入れ替えを行っている。広い保育室だが、遊びの種類ごとに玩具棚で分けられているので他の遊びと交わることなく、集中して遊べるよう工夫されている。絵本、手先を使う玩具、ごっこあそび、構成あそびと発達や興味関心を満たせるよう満遍なく用意されている。幼児クラスでは折り紙や絵などの作品を展示している。ラQや廃材製作など子どもが時間をかけて取り組みたい作品作りの際には、途中で片付けになってしまった時にも改めて取り組めるように配慮されている。

## 生活や遊びの中にはルールがあるからこそ気持ちよく楽しく生活できることを伝えている

1歳児クラスの子どもたちにも「違う遊びをするなら片付けていこうね」と声をかけ、生活の中の決まりを少しずつ伝えるようにしている。片付けやすいよう玩具棚に写真を貼ったり、職員も一緒に片付けるなど毎日の積み重ねを大切にしている。幼児のトイレ前には、トイレスリッパに履き替えるために脱いだ上履きを整頓しておくよう床に靴のマークが貼ってある。絵本コーナーの絵本は種類別に色違いのテープが貼られ子どもにもすぐに片付ける場所がわかるようにするなど、子ども目線でルールや決まりを守りたくなるような仕掛けや工夫をしている。

## 体操・ダンス・アート・英語は外部専門講師によりプログラム提供されて実施している

毎月ダンス、アート、英語、体操(月に2回)は専門講師が園にきて指導している。5歳児アートのプログラムとして、使用していない電化製品の分解体験(電流、電気が流れないような安全なもの)中の部品が大籠にまとめられていたり、大きな石を砕く実験ではゴーグルをはめ砕いた石のかけらを天秤ばかりで重さをはかり仕分けするなど、家庭ではなかなか体験できないが子どもにとっては大変魅力的な活動を行っている。体操教室は身体動かすには十分な広さのホールで実施している

評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○
標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○
標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○

## 講評

## 日常とのつながりを大切にした行事を行うため、行事の内容などは毎年検討している

前年度末に行事の振り返りをし、形骸化したまま行わずその時々状況において最良の形で実施できるように計画を立てている。コロナ対策で縮小・復活したり形を変えたものについては、その都度、意図や趣旨を保護者に説明している。保護者参加(観覧)の大きな行事では、行事(見せる)のために何かをするのではなく、「日々の生活の中でできるようになってきたことを保護者の方に披露する」という考えのもと、子どもたちに負担がかかりすぎないようにしている。季節の行事は子どもと職員で行っているため、保護者には写真販売している。

## 子どもが自ら取り組んでいけるような内容の工夫をしている

発表会での劇の配役を決める際には、子どもたち皆が一通り全ての役をやってみたり、劇ごっことして遊んでみるという段階を踏むところから保育計画の中に組み入れている。自分はどの役がやりたいか考えたり、周りも「○○ちゃんに合うのはどの役かな?」と考え伝え合うなど、一つひとつが皆で協力することの学びや意欲的に取り組む姿勢につながっていると思われる。4・5歳児合同のチームで行う運動会のリレーでは、5歳児が中心となって作戦をたてたり、順番を考えるなどリーダーシップを発揮しながら練習を重ねることができたとのことである。

## 保護者のアンケート内容の反映や保護者参加企画など行事を通し協育につなげている

行事予定の早めの告知や各クラスだよりで子どもの様子を伝えることで、保護者にも行事を楽しみにしてもらおうと同時に行事への理解協力を促している。「パパママ先生」では、朝から昼食まで職員と同じようにエプロンをつけ先生として子どもたちと一緒に遊んだり、世話をしながら、子どもの様子や職員が日頃どのようにしているかを見て感じてもらう機会としている。半日ではあるが、保護者にとってはとても心に残る体験となっていることが参加後のアンケートからも読み取ることができる。職員との信頼関係が一段と深まる行事の一つと思われる。

評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	実施状況
標準項目1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/>
標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/>

## 講評

## 延長保育では異年齢の子ども同士が関わりながらゆったりと過ごせるように配慮している

延長保育は1歳児保育室での合同保育を朝は開園から8時まで、夕方は18時15分から実施している。別料金となるが家庭の夕食に影響しない程度の補食と事前申し込みによる夕食への対応もそれぞれ行っている。1歳児室は玩具棚で分けられ、柔らかなマットが敷いてあるため夕方でゆっくりしたい子どもは個の空間も確保することができる環境となっている。絵本や玩具も自由に使うことができるので個々に好きな遊びをみつけたり、異年齢で遊んだり、職員と1対1でスキンシップしながら過ごすことができる。

## 日頃から情報共有や交流があるので子どもは担任以外の職員でも安心して過ごしている

延長保育は職員のシフトにより当番で行っている。クラス担任が降園まで一緒に過ごすことはできないが、園全体では常に子どもや保護者についての情報共有を行い、異年齢交流などを通して一緒に過ごす機会を設けていることから、子どもたちは安心して担任以外の職員と過ごしている。また、担任とは異なる視点での子どもの見方や様子を職員間で共有できることは、子どもにとっても職員にとっても良い機会と言える。担任から保護者への伝言などは申し送り表を使用して行うため問題なく行っている

評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	実施状況
標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/>
標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/>
標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/>
標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	<input type="radio"/>
標準項目5	保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	<input type="radio"/>

## 講評

## 栄養士と保育士の連携の良さが、子どもの食への意欲関心増につながっている

子どもたちの喫食状況は毎日昼礼で共有し、栄養士と保育者間で情報・意見交換がなされ次の提供時に活かしている。栄養士は各クラスの食事時間に巡回し、実際に子どもが食べている様子を見たり、子どもと一緒に食べたりすることでその時々の子どもの必要な援助を食育計画に反映させている。クッキーづくりの調理体験では幼児は形成を、乳児はビニール袋の上から生地を触り感触を楽しめるようにするなど、年齢の興味関心にあわせて実施している。食事マナーの話の際には、子どもの記憶に残るように〇×クイズを行うなど様々な食育活動が行われている。

## アレルギー食の対応はマニュアルによる園内研修で共通理解の上適切に提供されている

食物アレルギー児への対応は、法人作成の全園共通マニュアルに基づき行われている。マニュアルは給食室職員だけでなく園の全職員で読み合わせを行い、全員が周知できるようにしている。アレルギー児には専用の食器・食札をつけたトレーを使用するとともに給食室内職員間、栄養士と担任職員、クラスの職員間と合計3回のチェック確認のあと子どもに提供する仕組みとなっている。またアレルギー児にもできるだけ他の子どもと同じ物を提供できるようにとアレルギー食材を使用しない献立作成や工夫がされている。

## 保育アンケートには給食の項目もあり保護者からの要望を反映できる仕組みとなっている

保護者に向け提供される給食に関する情報は、毎月発行される献立表と食育だより、そして毎日配信される給食とおやつの写真となっている。食育だよりでは園で人気のあったメニューや子どもが食べやすい野菜の調理法などのレシピや園で行った調理体験の様子などの掲載をしており、食事面においても園が目指す「家庭との協育」が反映されていることがわかる。また、「パパママ先生」は園の給食を子どもと一緒に食べられる機会として楽しみにしている保護者も多く、実食した後の園の給食への意見や感想は、給食職員の更なる意欲にもつながっている。

評価項目7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
標準項目1	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/>
標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/>
標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	<input type="radio"/>

## 講評

## 子どもが自分自身の健康や安全に関心を持てるような健康教育が行われている

看護師による健康教育は、身体の仕組みだけではなく感染症や性についてなど幅広い内容で行っている。4・5歳児には絵本を用い「プライベートゾーン」について話し、日常の着替えの際にも配慮した声かけを行っている。2歳児クラスの手洗い指導では「ぴかぴかバイキンのお話」のパネルシアターや「あわあわ手洗いの歌」の手遊び、幼児クラスの子どもたちには手洗いチェックカードで洗い残しの菌を見ることが出来る体験などを実施している。各保育室の水道には手洗い手順写真を掲示するなど、子どもたちの日常につながる健康教育と環境作りが行われている。

## 内科・歯科・発達に関する専門員と共に子どもたちの心身の育ちを支えている

園医による内科健診が年に3回(0歳児は月2回)、歯科検診が年に2回行われている。健診結果は「健康の記録」に記載し、毎月実施の身長体重測定の結果は保護者配信アプリにて保護者と共有している。地域療育センターの専門員の巡回訪問が3か月に1回程度実施されている。発達面において気になる子どもの様子の観察後にはカンファレンスを実施し、日常の保育の中での細やかな対応へとつなげる仕組みができていく。区の発達相談の担当部署との連携もとれており、園職員だけではなく専門家と共に多角的に子どもの育ちを見ていくことができていく。

## 看護師が中心となり感染症対策・緊急対応研修を行い安心安全の運営を図っている

職員向けに「安全対策チェック・緊急時対応について」として水遊び時のマニュアル確認や嘔吐処理の実施訓練や研修などを行っている。保護者に向けては入園時や個人面談の中で園生活を送る上での配慮事項についてや園での取り組みの説明(乳幼児突然死症候群の予防など)を行い、保護者と連携しながら子ども一人ひとりの健康維持に取り組んでいる。保健だよりでは、子どもの病気時の対応や薬の取り扱い掲載、感染症発症時には保護者配信アプリや玄関の掲示板での告知や登園の際に必要な書類についての案内など、きめ細やかな対応をしている。

評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/>
標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/>
標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/>
標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/>
標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/>

## 講評

## 急な残業などに対して柔軟な対応をしていることを保護者から評価されている

保護者の負担軽減として、使用済みオムツの処分や午睡時の布団の用意は園で行っている。保護者アンケートでは「急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれるか」という設問で非該当を除くと93.3%が「満足」と答え、総合満足度も「大変満足」「満足」合わせて100%という評価を受けている。子どもの状況については登園園時に対面で日中の様子を伝えるほか、連絡帳の記録としても共有している。このほかに園だよりで行事予定を、クラスだよりで前月の報告を行うなど、情報の共有に努めている。

## 懇談会ではゲームや長縄をみんなで行うなど、保護者同士の交流を支援している

園の行事のうち運動会や発表会など、保護者が観覧できるようにしており、HPでも保護者も子どもたちと一緒に親子体操を行うなど、運動会の様子を画像とともに紹介している。コロナ禍以降、行事に参加できる人数を制限しているのに対して、増やしてほしいという要望にどう対応するか検討している。またクラス懇談会を年に2回開催し、保護者同士の交流の機会を設け、70%程度の家庭が参加している。懇談会ではゲームを行い、保護者同士の共通項を見つけたり、長縄をみんなで رفتり、各クラスの職員が工夫しながら対応している。

## 保護者参加を全クラスで実施し、保護者の保育に対する理解を深めるよう取り組んでいる

園では年2回、2週間の期間の中で全家庭との個人面談を行い、子どもの発達や育児について共有し、保護者の悩みを聞いたり、アドバイスを行ったりしている。また面談は保護者の要望や園が必要と判断した場合、随時実施している。保護者の保育参加を法人として「パパママ先生」と呼び、絵本の読み聞かせや一緒に外で遊ぶことを幼児クラスで行ってきたが、より多くの保護者に園の様子を知ってもらうため、3年目の今年度からは全クラスでの実施とし、2歳児以上は一緒に給食を食べるなどしてもらい、保育に対する理解を深めてもらうよう努めている。

	評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	実施状況
	標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○
	標準項目2	園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○
<b>講評</b>			
<p><b>近隣8保育園の年長交流会のホスト園として園児だけでなく職員間の交流も深めている</b></p>			
<p>園では公園への散歩も通して、近隣の他園の園児との自然な関わりを増やしている。特に年長クラスは近隣の保育園8園との年長交流会を数年前から行っており、参加園の数も少しずつ増えてきている。年長交流会としては、ドッジボール大会や運動会ごっこ、コマ大会など、年に数回開催している。当園はホスト園として、ほかの園との連絡調整を行っていく中で、園児同士の交流が図れているほか、職員同士の関係性も深めている。また中学生の職場体験の受け入れを毎年行っており、卒園した子どもも参加して絵本の読み聞かせなど、交流が継続されている。</p>			
<p><b>児童館と連携しながら、住民との交流から地域活動を増やしていきたいと考えている</b></p>			
<p>新型コロナウイルスが5類に移行し、以前よりも地域の保育園や小学校などとの交流の機会が増えている。隣接している児童館とは日頃から交流があるが、そこが主催の小学校の校庭で行う地域の行事には毎年、1つのブースを担当し、小学生を中心に遊べる場を提供している。ブースでは小学生だけでなく、乳幼児の工作なども行えるようにし、運営スタッフだけでなく、来場した地域住民との交流も図りながら、地域との連携が増えてきている。園としては今後も近隣住民との関わりがもっと深まるように、活動を増やしていきたいと考えている。</p>			

サブカテゴリ5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している		実施状況
標準項目1	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○
標準項目2	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○
評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		実施状況
標準項目1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○
標準項目2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○
標準項目3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○
<b>講評</b>			
<p><b>個人情報の取り扱い同意書には、第三者への提供について具体的な内容が列挙されている</b></p> <p>個人情報保護の方針として、プライバシーポリシーをHPで公開し、個人情報の取得の際は利用目的を知らせ、同意を得たうえで利用する旨が書かれている。保護者は入園説明会にて、個人情報の取り扱い同意書の中で説明し同意を得ている。その中で個人情報の第三者への提供については、保育や教育、適切な健康管理や必要時の連絡、そのほか正当な目的のために使用するとし、転園や就学に伴う他園・小学校への情報提供など、具体的な内容が列挙されている。この同意書は児童票などとともに個別ファイルに綴じ、鍵がかかる書庫で保管されている。</p>			
<p><b>羞恥心への配慮において、プライベートゾーンなど子どもたちへの教育も行っている</b></p> <p>個人情報の取り扱いや個人の尊厳などについての職員への教育は、入職時のオリエンテーションで実施されるほか、年1回、園長が講師となり職員会議の中で個人情報や守秘義務などについて研修を実施している。子どもたちへの羞恥心への配慮としては、オムツ交換は外部から見えない場所で行い、身体測定はクラスに仕切りを設け、個別に実施している。また水遊びは3階のベランダで行い、外部から見えないように配慮されている。またプール遊びが始まる前は看護師からプライベートゾーンについての話をするなど、子どもたちへの教育も行っている。</p>			
<p><b>羞恥心への配慮や意思を尊重する取り組みに力を入れている</b></p> <p>不適切保育を行わないようにするため、児童虐待及び人権侵害についての研修を実施するほか、不適切の具体例チェック表を使い年1回全職員で振り返りを行っている。午睡をしないときには、乳児は2歳児のクラスで、幼児は年長クラスで遊べるようにするなど子どもの意思を尊重するようにしている。本調査の職員自己評価に「一斉保育からの脱却を目指して、乳児はできる範囲で時間差保育を行った」「オムツ替え、着替えなどを一対一で関わるようにした」とあるように園全体で子どもへの羞恥心への配慮、意思や尊厳を尊重する取り組みを行っている。</p>			

サブカテゴリ6 事業所業務の標準化			
評価項目1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		実施状況
標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○
標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○
標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○
評価項目2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		実施状況
標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○
標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○
<b>講評</b>			
<b>安心・安全への取り組みとしてマニュアルの整備をHPで謳い業務の標準化に努めている</b>			
HPに安心・安全への取り組みとしてマニュアルの整備を挙げており、「400ページに及ぶ保育マニュアルの大部分を安心・安全に関する内容で占めており、逐一、改訂しています」とあるように園での業務については、法人で作成している業務マニュアルで法人内の園業務の標準化に努めている。共通マニュアルは法人の理念や目標で始まり、事故予防や指導計画・保育日誌、食事やトイレ対応など、保育の基本が書かれている。またデイリーマニュアルには乳児と幼児別に登園時から降園までの手順が時系列に示されるなど、日常業務の手順書となっている。			
<b>毎年内部監査を実施し、マニュアルに基づいた運営が行われているかを検証している</b>			
業務マニュアルやデイリーマニュアル以外にも感染症予防や対策、保健などリスクの高い重要なものについても別冊で法人としてマニュアル化している。園においては、早番や遅番の業務のチェック表や事故につながるリスクがある項目については安全チェック表を作成し、それを確認しながら業務を行うようにしている。また適正に業務を行っているかの確認は自分たちで行うだけでなく、毎年、園で自己評価を実施した後に、法人職員が数名で業務状況や書類の確認などの現地監査を行い、マニュアルに基づいた運営が行われているかを検証している。			

